

令和元年度第1回尾張旭市地域づくり懇談会 会議要旨

- 1 開催日時
令和2年3月18日（水）午前9時30分から午前11時まで
- 2 開催場所
尾張旭市役所3階 302会議室
- 3 出席者
高橋 眞知子（名古屋経営短期大学）、大川 正喜（尾張旭市商工会）、
水野 恵介（あいち尾東農業協同組合）、
伊藤 幸子（尾張旭市観光協会・代理出席）、酒向 清治（瀬戸信用金庫）
- 4 欠席者
横山 史佳（尾張旭市観光協会）
- 5 傍聴者数
0名
- 6 出席した事務局職員
企画課長 山下 昭彦、企画課企画係長 大谷 健司、企画課主査 原 靖之、
産業課にぎわい交流係長 伊藤 公一
- 7 議題
 - (1) 尾張旭市地域づくり懇談会について
 - (2) 尾張旭市総合戦略の効果検証について
 - (3) 尾張旭市総合戦略の改定について
- 8 会議の要旨

1 開会
<ul style="list-style-type: none">○ 事務局からあいさつ○ 資料の確認○ 懇談会の進め方の説明
2 構成員の紹介
<ul style="list-style-type: none">○ 事務局の進行により、構成員及び事務局職員の自己紹介○ 尾張旭市観光協会の横山氏が欠席のため、代理で伊藤氏が出席
3 議題
(1) 尾張旭市地域づくり懇談会について
<ul style="list-style-type: none">○ 事務局から、資料に基づいて説明○ 構成員の推薦により、高橋眞知子氏を座長とすることを決定。

(2) 尾張旭市総合戦略の効果検証について

- 事務局から資料に基づいて説明
- 内容について、次のとおり構成員から意見が出された。
- 「伝統芸能を守り抜く「シルバー活躍わらじづくり」プロジェクトについて、作成したわらじの販売方法はどのようになっているか。
(事務局)
シルバー人材センターが、棒の手保存会から注文を請けて販売している。店頭での販売は行っていないのが現状。
- 技術を習得した人数については、同好会が発足して自主的な活動を行っているなど、人が育っていると実感できる結果となっており、評価できる。
- わらじは、尾張旭市まち案内での販売も検討されたが、棒の手の演技に耐えられる本格的な作りになっており、一般の方は購入しにくいものとなっている。継続的な活動を目指すのであれば、一般の方が使いやすい商品開発の発想も必要と考えられる。
- わらじの周知やPRも必要。祭りにおける紹介コーナーの設置やイベントでのワークショップなども考えられる。
- わらじの取組に広がりを持たせることが可能と考えている。教育等を通じて子どもの頃から関わりがあれば、尾張旭市の財産に目を向け、市への愛着醸成から、やがては地元での就職を選択することも考えられる。
- わらじは、商工会の特産推奨品にも登録されているが、商工会としても特産推奨品のPRを進めていく予定である。
- 瀬戸市の幼稚園では、運動能力の向上などを狙って園児に草履を履かせる取組があり、尾張旭市にもこのような視点があってもよい。
- グルメ・健康・ファッションが今のトレンドであるから、わらじを健康の視点から考えることもできる。
- 地方創生には、経済、生活、文化振興の視点が必要であると考えているが、この取組は、文化振興という点で、面白い取組と感じる。また、わらじだけでなく、棒の手という文化そのものにも関心が向けられるような展開が望ましい。

<p>(3) 尾張旭市総合戦略の改定について</p>
<p>○ 事務局から資料に基づいて説明</p> <p>○ 内容について、次のとおり構成員から意見が出された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 尾張旭市については、統計情報等で動向や推計を把握することができるが、国勢調査ベースでは、人口は減少傾向に転じ、老年人口の増加が全国平均の倍で著しいと推計されており、これらへの対応が必要になってくる。また、人口戦略という点では、瀬戸市や名古屋市守山区の志段味地区など、尾張旭市のターゲットであると考えられる世代の居住地の選択肢が他に存在する中で、他市との差別化をはじめ、計画への反映など、適切な対応を進める必要があると感じる。 ● イベント参加者はシニア層とファミリー層が多く、中高生の参加が見えない。にぎわいづくりについても、イベントに中高生・大学生などの世代を呼び込む工夫が必要と考える。 ● 市内事業者の事業承継については、市内は小規模な中小企業が中心であることから、国で言われるほど顕在化していないが、昨今の新型コロナウイルス等の社会の流れに影響を受けやすく、特に売上の問題は深刻である。また、老年人口の増加への対策として、バリアフリー化やトイレの整備が必要になってくるが、資金的な余裕がなく、問題が顕在化してから対応すると思われる。 ● 本市では農地面積も小さく、大府市のような規模での展開は難しい。また、若い世代に担っていただきたい部分もあるが、農地に関わる課題は、多面的な視点で解決を図る必要がある。
<p>4 その他</p>
<p>○ 事務局から、来年度の予定等について説明</p>
<p>5 閉会</p>